

のしろ産業フェア2022に米代西部森林管理署が出展 ～木エクラフト製作が人気～

10月22～23日の2日間、能代市総合体育館で「のしろ産業フェア2022」が開催され、米代西部森林管理署も出展しました。2年ぶり（昨年はコロナ禍により中止）に行われた産業フェアには、市内の各企業や業者、高校などが出展や販売などを行い、同時にチェーンソーアートや民俗芸能なども披露されました。

当署は4m×4mのブースに写真とパネルを展示。岳岱や400年ブナの過去と現在、風の松原、きみまち杉などの写真を展示しました。また、能代海岸防災林の造成を記録した写真集「風に学んで」、白神山地森林生態系保護地域や保安林などの各種パンフレットの配付を行いました。

また、2年前の出展で課題となった集客の弱さを克服するため、今回はマツボックリやドングリ、トチの実などの木の実やブナ、ナラの輪切りを準備し、木エクラフト製作コーナーを設けました。最初は出足が鈍かったものの、職員が作った熊の人形（お手本）を目にした年配の方々が興味をもってブースに立ち寄り、職員の指導を受けながら作り始めました。その後、徐々に家族連れが多くなり、思い思いに作品を作りました。年配者はお手本を参考に、



【米代西部署のブース正面】

【米代西部署のブース裏側】



子ども達は独創的なものを作る傾向が見られました。木エクラフト製作だけでも100人程がチャレンジするなど、たいへん盛況のうちに終了することができました。

このように、市民とのふれあいを通して、森林管理署の存在感や業務内容、森林・林業・木材産業に対する関心を少しでももってほしいと思います。

←【木エクラフトの最初の挑戦者】



【木工クラフトにお客さんが集中】



【パネルを見入る】



【いい写真だね】



【親子でなかよく製作】



【子供たちも夢中】



【大人も夢中】



【職員が製作した作品】